

## 第2学年 国語科学習指導案

日時 平成18年10月18日(水) 5校時  
児童 2年 男子8名 女子7名 計15名  
指導者 砂子田雅文

### 1 単元名

ようすを考えて読もう「お手紙」 (光村図書 国語下 赤とんぼ)

### 2 単元について

#### (1) 教材について

本単元は、学習指導要領「C読むこと」の目標「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気づきながら読むことができるようにするとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。」を受けて設定した。「お手紙」の学習を通して場面や登場人物の気持ちを想像することと関連したお話や絵本を読む経験を豊かにさせること、さらに、本を紹介し合うことにより、より一層読書の幅を広げることを目指している。本単元の指導事項は、第3学年及び第4学年の「場面の移り変わりや情景を、叙述をもとに想像しながら読むこと。」につながるものである。

本教材「お手紙」は、がまくんとかえるくんという二人のかえるが主人公のお話である。手紙を一度ももらったことのないがまくんは、来る当ての無い手紙を待ち続け、寂しさから心がいじけてしまう。がまくんの悲しい思いを自分の悲しみとして受け止め、がまくんを喜ばせてあげようとかえるくんは、内緒で手紙を出す。その後、どんどん落ち込むがまくんを何とか元気付けたくて内緒を打ち明けてしまうかえるくん。かえるくんからの手紙の内容を知ったがまくんは感激し、その到着を幸せな気持ちで待つという内容である。ちょっぴりわがままで自分勝手ながまくんと、一生懸命相手に優しい言葉をかけるかえるくんの温かい友情が主題となっており、この二人の対照的な様子を挿絵と文を結びつけながら読み深める楽しさを味わうことができる構成となっている。そして、手紙を配達する人物としてかたつむりくんの登場が、この作品にゆったりとした広がりを与えとともに、ユーモラスな味を加えている。

子どもたちは、素直な心でお話の世界を思う存分想像し、「すぐやるぜ。」「くれなかったんだぜ。」などの言い回しも楽しみながら読んでいくことができると思われる。

挿絵や会話が豊富な作品であるため、子どもたちには親しみやすい。それらを効果的に活用することによって、登場人物に共感し、想像を広げながら読み進めることができると思われる。さらに、教材文からアーノルド＝ローベルの関連作品に読みを広げることで、楽しんで読書しようとする態度も育てていくことができる教材といえる。

#### (2) 児童について

子どもたちは、お話を好み、読み聞かせの時は、興味深く耳を傾けている。また、読書の習慣は、1年生の頃から身につけていて、本を読むことに対する抵抗は少ない。

4月教材「ふきのとう」では、叙述や挿絵に即して場面の様子を想像しながら、音読した。6月教材「スイミー」では、主語と述語の関係、比喻や倒置法などの特徴的な表現の面白さを学んだ。ワークシートへの記述を取り入れ、一人一人の読みを深める学習をした。音読では、場面の様子がよく分かるように声の大きさ、読む速さを工夫した。書く活動では、想像を広げるために言葉に着目し、自分なりに感じたことや考えたことを書き込む活動を行った。初めての書き込みだったが、視点を明確にすることや友だちとの発表を聞くことでだんだん書けるようになってきた。対話による学び合いを取り入れ、相手意識を持たせた聞き合う学習をした。

子どもたちは、話の内容を想像することは大好きではあるが、表現の能力には、個人差が見られ

る。また、言葉を意識したり、描写に立ち止まって考えたりすることには、まだ、十分とはいえない。

### (3) 指導にあたって

本単元の教材で、身に付けさせたい力は、場面の様子やがまくん、かえるくんの心情について想像しながら読む。がまくんやかえるくんの気持ちがよく表れるように、語や文のまとまり、声の大きさなどに注意して読む。主語と述語との関係に注意して読んだり書いたりするである。

そこで、「つかむ」段階では、様々な音読の方法を取り入れながら、音読練習を行い、どの子もすらすらと読めるように指導したい。次に、時間的な順序、事柄の順序を考えながら内容の大体を読む力を付けるためにワークシートを用いて子どもたちが文中の言葉に着目しながら、場面ごとのあらすじをつかむことができるように指導したい。

「ふかめる」段階では、「一人学び」として、一人一人の読みを大切にするためにがまくんやかえるくんの気持ちが表れているところにサイドラインを引いて、書き込みをしたり、吹き出しに書いたりするなどの活動を取り入れ、叙述に結びつけながらかえるくんのやさしさやがまくんの悲しみが幸せへと変わっていく心の動きや二人の気持ちや場面の様子を想像できるように指導したい。また、挿絵を活用して場面の様子を想像させ、お話の世界に浸らせたい。

場面の様子や登場人物の気持ちを読み深めるために、「学び合い」では、これを対話によってより相手意識を持った交流で深めさせたい。全体での「学び合い」では、相手の読み取りを聞きながら、相手の考えを受け止めて聞き、自分の考えを相手に伝えるようにしたい。また、役割読みで音読をして、登場人物の会話のやり取りをたっぷり、楽しませ、読み取りを深めたい。

「まとめる」段階では、自分の気に入った登場人物を選び、お手紙を書く活動をさせたい。読み取ったことをもとに、自分の思いを書かせ、手紙の書き方に生かせるようにさせたい。また、書いた文章を読み合う交流を通して「学び合い」が深まるようにしたい。「同じ作者の絵本などの読書活動」では、これからの読書活動への意欲を高めるために、「ふたりシリーズ」の読み聞かせを行い、子どもたちの読書意欲を高めたい。

## 3 単元の目標

「だれが・どうした」に気をつけて、登場人物の気持ちや場面の様子を想像しながら読んだり、声に出して読んだりし、二人の友情のお話を楽しむ。

主語と述語の役割と言い方を知り、気をつけて読んだり書いたりする。

### (1) 関心・意欲・態度

- ・ 場面の様子を想像し、楽しく音読しようとする。
- ・ 友だちの音読や考えの良さを進んで見つけようとする。

### (2) 読む

- ・ 時間的な順序、事柄の順序を考えながら内容の大体を読むことができる。
- ・ 場面の様子などについて、想像を広げながら読むことができる。
- ・ 語や文のまとまり、声の大きさに注意して読むことができる。
- ・ 登場人物にあてて手紙を書くことができる。

### (3) 言語事項

- ・ 文の中における主語と述語の関係に注意しながら読むことができる。

4 単元指導計画と評価計画 ( 14時間 本時 7 14)

過程	時	目 標	具 体 の 評 価 規 準		
			B (概ね達成)	A (十分達成の一例)	C (努力を要する子への手立て)
つ か む	1	・手紙を書いてもらったりした経験や「お手紙」を読んで面白いと思ったことを発表することができる。	関：自らの手紙をもった経験を話したり、本文中の面白いと思ったところを指摘しようとしている。(発言・観察)	・進んで手紙を書いた体験談や感想を話したり、お話の面白いと思った箇所などを理由を交えて話そうとしている。	友だちの発表と同じように思ったところはないか考えさせる。
	2	・感想をもとに話し合い、新出漢字や語句の学習をして学習計画を立て見通しをもつことができる。	読：粗筋をとらえ、場面分けをしたり、学習したいことを考えている。(発言・観察)	・叙述に即して、大体の粗筋をつかみ、場面の変わるところに線を引いたり、場面の分け方について、進んで発表しようとしている。	挿絵と本文とのつながりを指摘して、場面の変わっているところを考えさせる。
	3	・三人の会話に気をつけながら、全文を音読することができる。	読：誰の会話文であるかを指摘してお話の大体を読み取っている。(観察・発言)	・一つ一つの会話文について、話し手が誰であるかを前後の文から推測して正しく捉えている。	一つ一つの会話文が誰の台詞かを考えさせる。
ふ か め る	4	・悲しい気分にいる二人の様子を読み取ることができる。	読：がまくんの悲しみとその姿を見て、心を痛めるかえるくんの様子を想像している。(ワークシート・発言)	・二人が悲しんでいる理由をとらえ、それぞれの立場を想像している。	挿絵をもとに二人の表情から心情を読み取らせ、会話文を手がかりにかえるくんの気持ちを想像させる。
	5	・かえるくんの行動の順序や大いそぎで帰って、手紙を書くかえるくんの様子を読み取ることができる。	読：がまくんを喜ばせようと急いで手紙を書いている様子や気持ちを読み取っている。(発言・観察)	・「おおいそぎ」「とびだしました」の言葉に着目して、がまくんを思いやっているかえるくんの気持ちを想像し、手紙を書いた理由を考えようとしている。	かえるくんがしたことを文章の書かれている順序に沿って整理させる。「大いそぎ」の言葉について説明する。
	6	・手紙の到着を待ちきれないかえるくと悲観的になっているがまくんの様子を読み取ることができる。	読：あきらめているがまくんと勇気付けようとしているかえる君の気持ちを想像している。(発言・ワークシート)	・会話文だけでなく、かえるくんの「まどからゆうびんうけを見ました。」「まどからのぞきました。」という様子から手紙を待ち受けている気持ちが強まっていることを捉えようとしている。	二人の会話文を対比させながら様子を想像させてそれぞれのように思っているのか考えさせる。

	7 本 時	・幸せな気持ちで座っている二人の様子を読み取ることができる。	読：二人の言動や幸せな思いなどを正しく読み取りその時の二人の様子を想像している。(発言・ワークシート)	・一の場面と比べて二人の気持ちが変わり二人が幸せな気持ちになった理由や様子の違いを読み取っている。	前時の学習を振り返り、それぞれの気持ちを確かめさせ、子の場面で心情が変化した文章を見つけさせる。
	8	・幸せな気持ちで座っている二人の様子を想像しながら、役割になりきって、音読することができる。	読：登場人物の言動や幸せな様子などを想像しながら会話を音読している。(観察・表現)	・一の場面の「ああ」との違いを音読で表現しようとしたり、がまくんの気持ちの推移が分かるように進んで音読を工夫している。	前時の学習を振り返り、それぞれの気持ちを確かめさせる。
ま と め る	9	・登場人物の気持ちがよく表れるように語や文のまとまり、声の大きさに注意して読むことができる。	関：登場人物の言動や気持ちを考え、楽しく音読しようとしている。(音読)	・登場人物の言動や気持ちを考え、読み方を工夫しながら音読しようとしている。	登場人物の行動や心情をノート、ワークシート等で振り返らせる。
	10	・アーノルド＝ローベルの「ふたりシリーズ」のお話に興味を持ち、進んで読むことができる。	関：読み聞かせを聞き、感想を交流しようとしている。(発言・観察)	・登場人物の会話や行動から面白さを見つけたり「お手紙」と比べたりしようとしている。	お話の中のあらすじを挿絵を見せながら確認させる。
	11	・かえるくん、がまくん、かたつむりくんの中から相手を選び、自分の「思い」を手紙に書くことができる。	読：一人の登場人物にあてて思ったことを手紙に書いている。(ワークシート)	・登場人物にあてて、読み終わった内容を踏まえ、相手が喜ぶような内容の手紙を書こうとしている。	登場人物の行動や気持ちを想起させながら、書きたいことを整理させる。
	12	・登場人物の中から一人選んで、手紙を書くことができる。	読：登場人物にあてて、自分が思ったことを手紙に書いている。(ワークシート)	・二人目、三人目の登場人物に積極的に手紙を書き、進んで友だちと交流しようとしている。	自分の心に沸き起こる気持ちをメモさせながら、書かせる。

5 本時の指導 ( 7 / 12 )

( 1 ) 本時の目標

かえるくんとがまくんの会話に着目して、がまくんに手紙を書いたことを打ち明けるかえるくんとそれを知り、感激するがまくんの様子を読み取ることができる。

( 2 ) 指導にあたって

本時は、1 場面で悲しい気分で落ち込んでいた二人の気持ちが、がらっと変わり、しあわせな気持ちに変わる 4 場面の学習である。次の点に留意して指導にあたりたい。前時を想起させる段階として「きょうは、だれかが、きみにお手紙くれるかもしれないよ」という言葉を手がかりに叙述に即して、自分なりの思いを持たせたい。

「一人学び」の段階では、悲しい気持ちで沈んでいたがまくんの気持ちががらっと変化したことが分かる記述を見つけさせ、会話やお手紙に着目させてサイドラインを引かせたい。また、その時の変化の様子について、自分なりの考えを持たせるために、自分の気持ちや手紙を書いたかえるくんの気持ち、お手紙を読んだがまくんの気持ち等を書き込みさせたい。

「学び合い」の段階では、がまくんの気持ちがなぜ変わったのかその理由について、それぞれお隣さん同士のペアで対話させたい。そのことで発表に対しての自信を持たせたい。さらに、全体の中で場面の様子を想像し、どうしてそのように考えたのかを言葉を根拠に話させたい。友だちの意見を聞きながら話をつなげながら自分の考えを話すことで、がまくんの気持ちが変わった理由に気づかせたい。

( 3 ) 本時の展開

過程	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価 (準備する物)
つ か む	1 前時の学習を想起する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学習場面の感想を紹介しながら、お手紙を待つ二人の心情の違いを想起させる。</li> <li>・かえるくんとがまくんの二人の会話文を手がかりにしながら課題解決していくことを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の学習掲示</li> </ul>
5 分	2 学習課題を確認する。 気持ちがかわった時の二人の様子を読み取ろう。		
ふ か め る	3 学習場面を音読する。 ・交代読み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音読は、二人の会話内容を想像できるように、はっきりと読ませる。</li> </ul>	<p>【評価】 かえるくんとがまくんの様子とお手紙を読むまでのことを叙述に即して読み取り、書いたりしている。(記述・観察)</p>
	4 がまくんの様子の変化や気持ちを読み取る。 ( 1 ) 手紙を読んでがまくんの気持ちが変化したところにサイドラインを引き、がまくんの気持ちを書き込む。(一人学び)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習課題を解決するためにかえるくんの手紙を指摘し、書き足す活動につなげさせる。</li> <li>・かえるくんが書いた手紙に書かれていた手紙に込められた願いや気持ちに共感させその場の様子を思い浮かべさせ書き込みをさせる。</li> </ul>	
	( 2 ) かえるくんの告白を聞いて、驚き感激するがまくんの様子を	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がまくんの「ああ」という言葉に着目させ、予想外の驚きから感</li> </ul>	

3 4 分	話し合う。(学び合い・ペア学習)  (3)がまくん、かえるくんの様子や気持ちを想像する。 (学び合い)	<p>激、幸せな気持ちへと変化していくがまくんの心の動きを想像させる。</p> <p>・がまくんのことを思うかえるくんの気持ちに触れ、このことがきっかけで二人の心の触れ合いが深まったことに気づかせる。</p>	【評価】 幸せな気持ちになった二人の様子を想像豊かに思いえがいて、違いを読み取ろうとしている。(発言・観察)
ま と め る 6 分	<p>5 本時のまとめをする。</p> <p>6 学習を振り返る。</p> <p>7 次時の学習について確認する。</p>	<p>・学習課題に沿って自分なりの言葉で二人の気持ちを表現させる。</p> <p>・学習を振り返り、分かったことや感想などを発表する。</p> <p>・本時の学習を生かして役割読みをすることを伝える。</p>	

(4) 板書計画

お手紙  
かだい

「ふたりとも、とてもしあわせな気持ちで、そこに座っていました。」

「親愛なるがまがえるくん。ぼくは、きみがぼくの親友であることを、うれしく思っています。きみの親友、かえる。」

「ふたりとも、かなしい気分で、げんかんの前にこしをおろしていました。」

かえるくん  
がまくん

「きみが」「ああ」「とてもいい手紙だ」

「でも、きやしないよ」

「きつとくるよ」

「だつて、ぼくがきみにお手紙だしたんだもの」

「かえるくんのおかげでしあわせだな。がまくん、よろしく伝えて、うれしよ。」



